

山あいの防災・減災をより万全に

広島県神石高原町は県東部・備後地域の山あい、人口9千人弱の自治体です。2004年に4つの町村が合併して発足したもので、これまで町役場庁舎は旧三和町のものをそのまま使用していました。しかしこの建物は近年の耐震診断で倒壊の恐れありと判断されたため、平成29年度より新庁舎建設計画がスタート。現在は設計も完了し造成工事を進めています。

同町では平成30年の西日本豪雨での災害の記憶も新しく、災害対策は重要な課題の一つとなっています。そのため新庁舎計画の一環として敷地内には雨水の一時滞留のための地下貯留槽「ジオプールAE-1」が設置されることとなりました。

ジオプールAE-1は再生プラスチックを材料にしながら最大土被り3.3mの高い耐荷重性能を持ち、施

地下貯留槽「ジオプールAE-1」

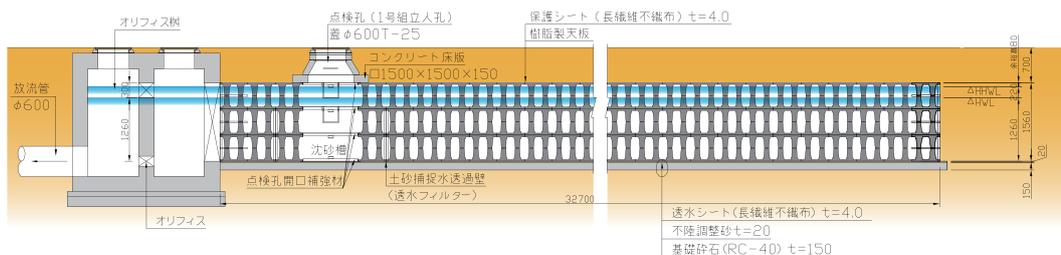


工中の工事車両の通行や完成後の地上部の利用も可能（条件付き）。当計画でも上部は来庁者用駐車場として整備される予定です。

そして高強度であると同時に空隙率93%と高容量な製品デザインと軽量簡便な施工により、整備効果の高

い施設を迅速に完成に向けることができます。

土砂災害が多く、平成30年7月豪雨災害も記憶に新しい同町では、防災性を高めた新庁舎の早期の運用が待ち望まれています。



工事概要

施主：神石高原町役場
 工事名：神石高原町庁舎・病院敷地造成
 施工：児玉建設株式会社
 商品：ジオプールAE-1
 規模：1,720m³

実際大ファイギュアは体長三十センチ。現在では骨ではなく生きてきた姿が再現され、百五十センチはあるであろうメスのシロナガスクジラが海面での深呼吸を終え急速潜航しようとしているところが表現されているそうです。半世紀が過ぎ見た目は変わっても同じ場所でダイビングを続けているクジラ、上野の森に行ったらぜひご覧になってみてください。

今でも鮮明に記憶に残っているのは幼稚園の送迎バスの車窓から見たシロナガスクジラの骨格標本です。幼稚園の先生に地球上で一番大きい生き物よ、と教わり毎日、「毎日、「でっかいなあ」と思って眺めていました。当時を思い出しながら調べてみたところ、現在も同じ場所、上野の国立科学博物館に一九九四年に制作された三代目となる実物大ファイギュアがありました。一九六九年当時に私が眺めていたのは恐らくは初代なのでしよう（もう記録が残っていませんー笑）。

私は東京で生まれ育ち小学校に上がるまでは台東区に住んでいました。もう半世紀も前の話ですが、幼稚園は上野の森、東叡山寛永寺の中にある寛永寺幼稚園に通いました。寛永寺は三代將軍徳川家光が創建した徳川將軍家の祈禱所・菩提寺で、歴代將軍十五人のうち六人が眠っているそうです。

お国自慢

上野の森のシロナガスクジラ
 創環部 大川 浩

岡三リピック商品群

道路・盛土 多数アンカー式補強土壁工法 トリグリッドEX パラリンク フラットパネル RRR工法 EDO-EPS工法
 ダイブハウエル管 法面・防災 多機能フィルター ミニアンカーDO PDR工法 サビレス100
 維持・管理 ARISライナー工法 SWライナー工法 RCGインナーシールα工法 Tn-p工法 ローマットHDB
 鉄鋼建材 ライナープレート コルゲートパイプ 景観・環境 ロッキーステージ 斜面いりどり工法 フォトリックアート

「錆びない沖縄柵」で地域インフラに貢献

沖縄リビング(株)

沖縄の年間観光客数はいまやハワイを超えるほど。サンゴ礁で囲まれたエメラルド色の海には熱帯魚があふれ、その異国情緒は多くの人に癒しを与えてくれます。しかしこの年中高温多湿な亜熱帯気候と海の影響を強く受ける環境が、実は沖縄の構造物に錆と劣化という負の影響を及ぼしています。

県内自治体の多くが塩害による構造物の劣化に悩まされており、沖縄の構造物の錆びる速度は本州の太平洋沿岸部に比べて10倍にもなるとの、琉球大学工学部・下里教授の報告※も出ています。

海岸沿いのフェンスなどは5年程度で錆び付くためこの取替え工事は各自治体に大きな財政負担となっています。

そこで活躍するのがトワロン(株)が開発した「低密度ポリエチレン被覆線」。耐食性や耐摩耗性にすぐれ弾

※於インフラメンテナンス国民会議沖縄フォーラム(2019年)



力性、柔軟性を合わせ持つIR被覆鉄線です。

その優れた特徴のひとつが塩害への強さで、塩水噴霧試験では40年程度の耐塩性が確認されている(JIS Z 2371準拠・10,000時間)ほか、促進暴露試験では紫外線への60年程度の耐候性(JIS A 1415準拠・12,000時間)も示しています。

岡三リビンググループの沖縄リビング株式会社はこの低密度ポリエチレン被覆線を地場に広めるべく沖縄でフェンス製作会社の株式会社大進商会とタッグ、県産品のひし形金網「錆びない沖縄柵」を誕生させました。

同社は防蛇フェンスやマングース

侵入防止柵、ワイヤーメッシュ、ひし形金網などを製造する地場の線材二次製品のパイオニアとして知られており、多くの商材が本土から船で運ばれてくる沖縄にあって県産品として容易に材料が入手できる安心感とは同社の大きなアドバンテージとなっています。

イニシャルコストこそ従来品より高めなもの、30年以上というライフサイクルはランニングコストが大きく抑えられる上に景観面でも健全で良好な状態を保ち続けることが可能になります。

私達は人々のより豊かな生活を支えるインフラの構築・維持・更新に寄与する企業でありたいと考えております。

徒然月記

記：編集T

エレベーターの非日常

かつて「街のデパート」が輝いていた時代、誰もがその「晴れの空間」に憧れていた。その代表がエレベーターガールの存在だったろう。

今でも東京日本橋の高島屋では、一九三三年築の建物の歴史そのままに、蛇腹式のフェンスを手で開け閉めするエレベーターガールが各階へと誘う様を見ることが出来る。

しかし、ほど近い銀座一丁目にある「奥野ビル」はもつと凄い。ここにも一九三二年築当時の蛇腹式フェンスのエレベーターがあるのだが、ここはドア開閉も乗客任せだ。

実際に乗ろうとすると建物側のドアが結構重く、まごまごしていると動き出してギリギリな感じがして怖い、実際にはカゴのフェンスが閉まっていると動かない仕組みなので落ちていないと動かない仕組みなので落ち着いて対処しよう。逆に、使用後にきちんとフェンスを閉めておかないと他の階で誰かがエレベーターを呼んでも動かないため、周囲にはしつこいほど開閉についての注意書きがある。

カゴ自体は近年更新され味わいが半減したものの、その見慣れた日常感と、フェンスのすぐ先を建物の壁がナマでガッツと上下するのを見る非日常感とのギャップが逆にトリップ感を醸す。

京都には一九二六年製、日本で最古の現役エレベーターがあるという。何かの機会に訪ねてみたいものだ。



岡三リビング株式会社

東京都港区港南1-8-27 日新ビル ☎03-5782-9082



札幌・盛岡・仙台・高崎・東京・新潟・金沢・長野
静岡・名古屋・大阪・米子・広島・高松・松山・福岡
鹿児島・沖縄リビング(株)・岡三リビングベトナム会社